

EUSI メールマガジン Vol. 074

「ブレトンウッズ期イギリスのポンド外交」(工藤芽衣)

EUSI (EU Studies Institute in Tokyo)は、一橋大学・慶應義塾大学・津田塾大学の3校のコンソーシアムによるEUに関する教育・研究・広報を行う拠点です(詳しくは以下をご覧ください)
http://eusi.jp/content_jp/aboutus/about_eusi/

【EUSI Commentary Vol. 056】

「ブレトンウッズ期イギリスのポンド外交」

工藤芽衣 (EUSI 研究員(経済)、津田塾大学国際関係研究所研究員)

ポンドに対する一般的イメージは、第二次大戦後になって国際通貨としての地位をドルに奪われ、その後は凋落の一方、といったものだろう。実際に、一般的なテキストにはだいたいそのようなことが書いている。ところが、正確には、第二次大戦後もしばらくの間は、ポンドは国際通貨としての機能を維持していたことが、近年の研究から明らかになっている。各国中央銀行の外貨準備率で言えば、1950年代半ばまではまだポンドとドルは同等で、ドルがポンドを追い越すのはそれ以降のことであるし、貿易通貨としては、さらにもう少しの間、国際的に利用されていた。

このような国際通貨機能の名残は、イギリスにとっては足かせにもなり、また利点ともなったが、それゆえに、第二次大戦後ポンドを再び国際通貨として積極的に復活させるか否かは、大問題だった。もちろん、従来言われてきたように、ポンドと金融界シティの復活を積極的に追求しようとする政策決定者も存在したが、誰もがポンドの将来について同じ考えを持っていた訳ではない。ポンドの国際通貨としての復活を積極的に追求することよりも、如何にして危機を引き起こすことなく、ポンドを国際的舞台から撤退させるかを考えていた政策決定者も存在した。戦後の歴代政権が、ポンドの将来に関する一貫したシナリオを持っていたというわけではないが、要は、これまでポンド政策に対する評価が一面的であったのに対し、最近の研究は、ポンドの将来に対する様々な葛藤の存在を指摘するのである。

さて、ポンドが国際通貨として一定の機能を維持していた以上、ポンド政策の動向は、イギリス以外の諸国にとっても重要な関心事であった。ポンド政策に対する国外からの一定の関心がある中で、1950年代には、ポンドの国際通貨としての地位を外交上の武器として使うことを主張する政策決定者も存在した。

...

(続きはこちら↓)

<http://www.hit-u.ac.jp/kenkyu/eusi/eusicommentary/vol56.pdf>

【EUSI イベントご案内】

1. EUJ 関西よりワークショップ(東京開催)のご案内

"What We Talk about When We Talk about State Dissolution:
Case of Yugoslavia"

日時: 2015年8月5日(水) 10:00-12:00
場所: 関西学院大学東京丸の内キャンパス
(JR 東京駅八重洲北口徒歩1分: 千代田区丸の内 1-7-12 サピアタワー10階)
http://www.kwansei.ac.jp/pr/pr_000553.html

"Interaction with a Non-recognised Territory:
Slovakia's Relations with Kosovo"
Katarina Lezova (Visiting Fellow, Goldsmiths, University of London)

"What Can We Talk about When We Talk about Yugoslavia?
On Area Studies, Knowledge, and the Political"
Aya Hino (Associate Lecturer, Goldsmiths, University of London)

司会: 市川 颯 (EUIJ 関西顧問、関西学院大学)

主催: EUIJ 関西、共催: 関西学院大学産業研究所
言語: 英語
参加: 事前申込要
1. 名前、2. 所属、3. 連絡先を明記し、e-mail (EUIJ-HinoAM@kwansei.ac.jp)
または、Fax(0798-54-6029)へお送り下さい
http://euij-kansai.jp/layouts/eu_sub/documents/event/20150805kgws.pdf

2. EUIJ 関西よりワークショップ(東京開催)のご案内 ワークショップ「汎欧州地域のエネルギー安全保障」

日時: 2015年8月5日(水) 13:30-16:00
場所: 関西学院大学東京丸の内キャンパス
(JR 東京駅八重洲北口徒歩1分: 千代田区丸の内 1-7-12 サピアタワー10階)
http://www.kwansei.ac.jp/pr/pr_000553.html

報告:
「エネルギー部門の環境コストと EU におけるエネルギー安全保障」
クシメナ・ロシエク (クラクフ経済大学)
「中央アジアにおけるエネルギー安全保障」
稲垣文昭 (慶應義塾大学)
「ロシアにおけるエネルギー戦略」
長谷直哉 (相山女学園大学)

質疑応答:
市川 颯 (EUIJ 関西顧問、関西学院大学・司会)
香川敏幸 (慶應義塾大学名誉教授・コメンテーター)
カジミエシュ・グルカ (クラクフ経済大学名誉教授・コメンテーター)

主催: EUIJ 関西、共催: 関西学院大学産業研究所
言語: 英語
参加: 無料・事前申込要
1. 名前、2. 所属、3. 連絡先を明記し、e-mail (EUIJ-150805@kwansei.ac.jp)
または、Fax(0798-54-6029)へお送り下さい
http://euij-kansai.jp/layouts/eu_sub/documents/event/20150805workshop-2.pdf

3. EUIJ 九州より EU 研究サマーコースのご案内

日時: 2015年9月3日(木)-9月6日(日) (3泊4日)
場所: 阿蘇青少年交流の家 (熊本県阿蘇市・豊肥本線宮地駅より車5分)

プログラム:

「EUの制度と歴史」

八谷まち子 (九州大学法学研究院教授・EUIJ九州所長)

「EUと加盟国—法的・政治的視点から」

森井裕一 (東京大学大学院総合文化研究科教授・東京大学 DESK センター長)

「ヨーロッパの教育制度」

エドワード・ヴィッカーズ (九州大学人間環境学研究院准教授)

「EU経済」

高崎春華 (大東文化大学経済学部助教)

参加者による模擬欧州理事会 (Simulation of the European Council)

「EUは移民の保護をどのようにするべきか？」

"What can the EU do for the immigrants?"

主催: EUIJ九州

募集対象: 全国の大学に所属する、EUに関心のある学部学生・大学院生

参加希望: 以下 HP(EUIJ九州によるご案内)よりお申込み下さい(締切・8月7日)

<http://www.euij-kyushu.com/jp/Residential%20Summer%20Course/index.html>

4. 大学セミナーハウスよりEUセミナーのご案内

第4回 EU セミナー「EUの新たな挑戦 危機をチャンスに変えて」

日時: 2015年9月18日(金)-20日(日) (2泊3日)

会場: 八王子セミナーハウス (東京都八王子市下柚木 1987-1)

特別講演「世界の中のEUと日EU関係の重要性」

"The EU in the World and the Importance of EU-Japan Relations"

ジョナサン・ハットウェル (駐日EU代表部副代表・公使)

第1分科会「欧州中央銀行の新たな役割」

田中素香 (中央大学経済研究所客員研究員)

太田瑞希子 (亜細亜大学国際関係学部准教授)

第2分科会「EUエネルギー同盟と世界エネルギー市場の再編」

蓮見雄 (立正大学経済学部教授)

第3分科会「EUとドイツの理想追求 基本権保障を中心に」

中西優美子 (一橋大学大学院法学研究科教授・EUSI所長)

第4分科会「EUの民主的ガバナンスと人の自由移動、移民・難民政策」

福田耕治 (早稲田大学政治経済学術院教授・EUIJ早稲田運営委員)

第5分科会「EU市民アイデンティティの行方」

押村高 (青山学院大学国際政治経済学部学部長・教授)

第6分科会「世界の中のEU」

渡邊啓貴 (東京外国語大学国際関係所所長・教授)

小久保康之 (東洋英和女学院大学国際社会学部教授)

主催: 公益財団法人 大学セミナーハウス
共催: 東京外国語大学国際関係研究所、後援: 駐日 EU 代表部
募集対象・人員: 大学生・大学院生・社会人 (先着順・合計 80 名まで)
参加希望: 以下 HP 上の申込フォームにてお申込み下さい (締切・9 月 10 日)
http://www.seminarhouse.or.jp/eu/eu_index04.html

【EU に関するニュース】

- 2015 年 7 月 1 日 ルクセンブルク、2015 年後期 EU 議長国に就任。同国の議長国就任は通算 12 回目
2015 年 7 月 1 日 ユーロ圏財務相会合電話会議、ギリシャ側の新改革案に留意し、同国国民投票までは保留
2015 年 7 月 1 日 ロシア、ウクライナ向けガス供給停止。前日までに EU・露・ウクライナガス価格交渉決裂
2015 年 7 月 1 日 EU 報道官、米国・キューバ国交回復及び大使館相互開設の合意に対して歓迎の意向声明
2015 年 7 月 2 日 EU 理事会、パレスチナ EU 警察ミッション(EUPOL COPPS)の来年 6 月末までの延長を決定
2015 年 7 月 3 日 Eurostat、5 月小売売上高(季節調整済)はユーロ圏 19 カ国前月比+0.2%、EU28 カ国同+0.3%
2015 年 7 月 3 日 駐中 EU 代表部、EU 関連教育文化観光情報公式ポータルサイト「欧夢(oumeng.eu)」開設
2015 年 7 月 5 日 ギリシャ国民投票、欧州委員会・ECB・IMF の支援案を賛成 38.69%、反対 61.31%で否決
2015 年 7 月 6 日 ヴァルファキス・ギリシャ財務相辞職、ツァカロトス副外相が後任に就任
2015 年 7 月 6 日 ハンガリー議会、同国＝セルビア国境 175km にわたり移民流入防ぐフェンス設置計画可決
2015 年 7 月 6-10 日 日・EU EPA 交渉第 11 回会合、ブリュッセルで開催。地理的表示や非関税障壁など協議
2015 年 7 月 7 日 ユーロ圏首脳会議、ギリシャは欧州安定メカニズム(ESM)を通じた支援要請。詳細案検討へ
2015 年 7 月 7 日 E3+3 イラン核協議、ウィーンで開催、本日期限まで最終合意に至らず、10 日まで再延長
2015 年 7 月 7 日 トマ・ピケティ氏ら世界的経済学者 5 名、メルケル独首相にギリシャ債務減免求む公開書簡
2015 年 7 月 8 日 欧州安定メカニズム(ESM)、ギリシャの正式要請受け、欧州委員会・ECB・IMF に審査要請
2015 年 7 月 8 日 ツィプラス・ギリシャ首相、欧州議会で演説。厳格過ぎる緊縮策を否定、欧州の団結強調
2015 年 7 月 8 日 EU、絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約(ワシントン条約)に加盟
2015 年 7 月 9 日 ギリシャ、新改革案提出。増税・年金改革など欧州委員会・ECB・IMF の要求に近い内容
2015 年 7 月 9 日 IMF、四半期毎の世界経済予測発表。ユーロ圏経済成長率は 2015 年度 1.5%、16 年度 1.7%
2015 年 7 月 9 日 モグリーニ上級代表ら、南スーダン独立 4 年を受け、同国の内戦を非難、解決求める声明
2015 年 7 月 10 日 E3+3 イラン核協議、ウィーンで開催、本日期限まで最終合意に至らず、13 日まで再延長
2015 年 7 月 10 日 Eurostat、EU 域内人口は 5 億 820 万人。前年比で自然増 20 万人、移民など社会増は 110 万人
2015 年 7 月 10 日 駐中 EU 代表部、青少年絵画展「欧州と中国の夢」開幕、8 月 31 日まで開催
2015 年 7 月 10-11 日 ギリシャ議会、9 日政府提出の新改革案を審議。与野党含め賛成 251、反対 32 で可決
2015 年 7 月 11 日 モグリーニ上級代表、スレブレニツァ虐殺 20 周年を受け、不戦や和解を希求する声明
2015 年 7 月 11-12 日 ユーロ圏財務相会合、ギリシャに 7 月 15 日までに関連改革法案の国内立法化を要求
2015 年 7 月 12-13 日 ユーロ圏首脳会議、17 時間の協議の末、ギリシャに関連改革法制化を条件に支援合意
2015 年 7 月 13 日 ユーロ圏財務相会合、ギリシャ支援合意に向けた今後の具体的措置とつなぎ融資を協議
2015 年 7 月 13 日 ユーロ圏財務相会合、ダイセルブルーム蘭財務相を議長に全会一致で再任。任期 2 年半
2015 年 7 月 14 日 E3+3 イラン核協議、共同包括的行動計画(JCPOA)最終合意成立。EU 対イラン制裁停止延長
2015 年 7 月 14 日 EU 加盟国、欧州エネルギーインフラ整備に 1.5 億ユーロ投資を行う欧州委員会案に合意
2015 年 7 月 14 日 Eurostat、5 月鉱工業生産(季節調整済)はユーロ圏 19 カ国前月比-0.4%、EU28 カ国-0.3%
2015 年 7 月 14 日 駐台湾欧州経済貿易事務所(EETO)、『EU・台湾関係概況』2015 年度公式報告書発表
2015 年 7 月 15 日 欧州委員会、エネルギー効率性表示や新エネ市場計画などエネルギー制度改革案を提案
2015 年 7 月 15 日 欧州委員会、ギリシャの雇用と成長計画のため 2020 年まで 350 億ユーロ規模の支援計画
2015 年 7 月 15 日 EU 海軍部隊、第 151 連合任務部隊(伊藤弘司令官)より海賊対処作戦の調整業務引継ぎ実施
2015 年 7 月 15 日 EU 報道官、中国の人権活動家らの逮捕や、チベット僧リンポチェ氏の獄死に憂慮の声明
2015 年 7 月 15-16 日 ギリシャ議会、増税・年金改革など財政改革関連国内法案を賛成 229、反対 64 で可決

【編集後記】

今回の巻頭エッセイは、EUSI プログラム・コーディネーター(経済)である工藤芽衣研究員に執筆していただきました。

ブレトンウッズ体制におけるイギリス・ポンドの機能に対する一面的な評価を排し、イギリスの国内事情と国際関係の狭間で、歴代政権の政策運営が多面的な性格を持っていたことを論じられています。振り返ってみれば、イギリスは個性的な首相を何人も輩出しています。

それにしても国民一人一人が手にするものとして、通貨の持つシンボリックな意味は誠にわかりやすいものですが、専門性の高い閉鎖的な集団によって運営される通貨政策の持つ複雑なメカニズムは誠にわかりにくいものがあります。独立した専門家集団である中央銀行に委ねることがよいのか、より国民に近いところにいると同時に、より議論の透明性が求められる政府あるいは議会による政策への関与がもっと必要なのか、通貨の問題は、どこの国においても、政治と経済の接点に位置する問題として目を離すことができないと思われま

(藤川哲史・EUSI・一橋大学・EUSI メールマガジン編集担当)

昭和を代表する落語家の一人・古今亭志ん朝(1938-2001)は、学生時代にドイツ語を勉強し、将来は外交官になるという夢を持っており、落語家になった後も弟子たちを毎年ドイツなどヨーロッパに連れてゆくというのが一門の伝統だったそうです——そんな今回は、私もたまたま寄席に誘われるようになって以来興味を持っている"落語とヨーロッパ"のお話し。

日本の伝統芸能の一つである落語を国際的に紹介する取り組みは、国際交流基金や多くの民間・文化・助成団体が落語家をヨーロッパなど海外に招待して公演を行う活動に取り組んできました。桂かい枝、三遊亭竜楽、柳家さん喬、柳亭左龍、三遊亭兼好、春風亭一之輔、春風亭びっかり、桃月庵白酒、三遊亭天どん、立川志の春など、若手から重鎮まで第一線で活躍する落語家を送っています。落語家の方も様々で、イェール大学卒で三井物産社員というエリートキャリアを捨てて落語界に飛び込んだ、英語に堪能な立川志の春のような方もいれば、桃月庵白酒のように海外渡航自体初めてという方もいて、非常に興味深いです。今年に入船亭扇辰、入船亭小辰がスウェーデン・ラトビア・ドイツ・チェコ4カ国を巡業し、落語を通じた国際文化交流を行っています。

また落語に魅せられたヨーロッパの方が日本に来て落語家を志す方もいます。イギリス出身の女性、ダイアン・オレット(ダイアン吉日)は、関西を拠点に英語創作落語や様々な芸能活動を行ってきたことが評価され、2013年度に第9回中曽根康弘賞を受賞しています。

そのようななか、ヨーロッパに落語を伝導している落語家中の真打ちといえば、三遊亭竜楽を以って他にいないでしょう。彼は様々な落語の噺を日英伊仏西葡独中8カ国語に翻訳して現地の言葉で披露しながら落語を広めるという非常に意義深い活動を2008年から続けており、そんな彼の活躍が最新の「EU MAG」で特集されています。

日本に限らず多くの国でコメディに関する芸能が根付いていますが、その中で日本の落語がユニバーサルな芸能として今後も拡がりを見せてゆくか、非常に楽しみです。

「8カ国語で「落語」の魅力を世界に発信 国際派落語家 三遊亭竜楽さんに聞く」
駐日 EU 代表部『EU MAG』(2015年7月23日)

<http://eumag.jp/spotlight/e0715/>

「インタビュー クララ・クレフトさん(ドイツ) 落語伝道師」

『My Eyes Tokyo』(2015年5月15日)
<http://www.myeyestokyo.jp/49980>

(林 大輔・EUSI 慶應分室・EUSI メールマガジン編集担当)

EUSI (EU Studies Institute) in Tokyo
〒186-8601 東京都国立市中 2-1
一橋大学 マーキュリータワー#3504 EUSI 事務局
TEL: 042-580-9117 / E-mail: info@eusi.jp

ご意見、ご感想、配信登録・配信停止、その他メールマガジンについての
問い合わせにつきましてはこちら
E-mail: info@eusi.jp
